

生田地区「次期システムの策定にあたって」

メタデータ	言語: jpn 出版者: 明治大学情報科学センター 公開日: 2012-05-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小笠原, 渉 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/12003

〔論 壇〕

次期システムの策定にあたって

生田システム課長 小笠原 渉

生田地区の情報処理教室、スーパーコンピュータ、サーバ、ネットワークなど非常に大きな教育研究システムを情報科学センター生田分室（生田システム課）で管理運営している。（一部、学部固有のコンピュータ実習室もあるようだ。）

この生田キャンパス教育研究システムが、スーパーコンピュータの廃止を前提に2005年3月にレンタル契約を終え、4月から新たなシステムを導入し、稼動する予定となっている。

来年度のことであり、予算については決定はしていないが、現在計画中の次期システムの提案をすべく仕様書をはじめ、関係書類の作成作業を現場SE（生田システム課員）を中心に行なっている真っ只中であり、やっとまとまりつつある。

前回のリプレイス時との大きな違いに業者選定がある。今までの業者特命の実績を競走入札に変更したことである。そこで当課では現在までに、仕様書作成に先立ち競走入札にかけるべく現システム委託業社に他2社を加えた3社に次期システム概要書（生田システム課作成）を示した結果である業者から得られた提案書も参考としながら、システムの最適化に向けて検討を行なってきた。その過程では業者からの魅力的な提案等も目にし、課員の刺激と勉強になったのでは、という副産物が得られたという気がする。

来年度の本学予算策定についての方針が聞こえる中、その恐ろしいほどの、また厳しいほどの削減案振りを耳にし、啞然、呆然としながら、このリプレイスに向けて、無駄なものを省くため、センター副所長（生田担当）も交え意見をぶつけあい、細かな見直しを行い、現・次期システムについて過ぎるほどの精査を行い、スリム化してもサービスの低下が極力起こらないような内容の提案にまとめる努力を続けてきた。

もうじきこの仕様書を含めた関連書類等を完成させ、理事会に対して、次期に向けてのシステムの更新を申請する段となる。私や副所長をはじめ、課員にもそれぞれの考えがあり、個々には、必ずしも納得していないという心残りはあるかもしれないが、やっとまとまりつつある。

私自身は、現行システムや予算等の制約を受けながらもこの次の更新、さらにその先の更新といよように、生田地区のこれからのシステムのあり方を考える第一歩であるという精神を注入した提案であると確信している。そしてユーザ（主に生田地区の学生、教職員）にとってよりよいシステムになるよう今後も誠心誠意業務に当たっていきたい。

最後に誌上で私情を述べることをお許し願いたい。「当然、業務である」「仕事だから当たり前」ということは重々承知の上で、これをまとめ上げてくれた課員、貴重な助言等をいただいた鎌田副所長をはじめとした関係各位に感謝を申し上げたい。

ありがとうございました。